

元気で暮らそう 家族の健康

子どもがかかりやすい 目の病気



医療法人弘正会 福島眼科
福島 正隆先生
朝霞市本町2-13-6 朝陽ビル3F
048-469-1006

当院を訪れるお子さんに多い眼疾患についてお話をします。

結膜炎

主な原因には細菌性、ウイルス性、アレルギー性があります。結膜炎の症状は、しるめが充血してめやにや涙が増えたり、かゆみやゴロゴロ感があらわれたり、しるめがブヨブヨしたりまぶたが腫れたりします。急性ウイルス性結膜炎は症状が特に強く、しるめの出血、耳の前のリンパ節の腫れ、発熱をおこすこともあり、俗に、はやり目と呼ばれますが、人の手、涙、めやにから接触感染しますので流行しないように注意が必要です。学校やプールで感染するプール熱（咽頭結膜熱）もそのひとつで、伝染性が強いので幼稚園や保育園や学校をお休みする必要があります。

麦粒腫・化膿性霰粒腫

俗にもものもらいと呼ばれますが、まぶたの縁にできものができて、そこが化膿して赤く腫れ、痛みや異物感を伴います。細菌感染が原因ですが、薬で腫れがひかない場合には手術を行うこともあります。

斜視・弱視

子どもの視力が発達するためには、毎日正しく両目でものを見るのが大切です、これは目に受けた刺激を脳が正しく理解する訓練なのです。ふつう六歳までにはおとなと同じくらいの視力をもつようになりますが、斜視（片方の目が見ようとする方向とは違う方を向いていること）や弱視（様々な原因で視力の発達が抑えられて止まってしまうこと）があると、視力や両眼視機能（両目をうまく使って見る働き）に将来的に障害を残してしまう可能性があるのです、早期に発見して治療する必要があります。